禁転載複製

「中央職業能力開発協会編」

令和８年度 前期 ビジネス・キャリア検定試験

生産管理分野

３級　生産管理プランニング

試　験　問　題

(11 ページ)

１．試験時間　110 分

２．注意事項

（１） 試験問題は、係員の指示があるまで開かないでください。

（２） 表紙に記載されている試験区分名が、申請している試験区分名と同じか確認してください。申請している試験区分と異なる試験区分を受験した場合は採点できず、不合格となりますので、ご注意ください。なお、試験開始後に申し出られても、試験時間の延長はできません。

（３） 試験問題は、40題あります。

（４） 試験問題の配点及び合格基準は、次のとおりです。

（配　　点）問題１～問題40　　各2.5点　　合計100点

（合格基準）試験全体として概ね60%以上の正答。

（５） 関係法令、会計基準、ＪＩＳ等の各種規格等に基づく出題については、問題文中に断りがある場合を除き、令和８年５月１日時点で施行されている内容に基づくものとします。

（６） マークシートにマークする際には、ＨＢ又はＢの黒鉛筆で、はっきりとマークしてください。それ以外は使用しないでください。なお、訂正する場合は、採点の際にマークシートの誤読の原因となることがありますので、きれいに消してください。

（７） 計算等が必要な場合は、問題用紙の余白を使用してください。

（８） 問題番号及び問題文に従って正解と思われるものを１つだけ選んで間違えないようにマークしてください。

（９） 試験問題の内容に関する質問には、一切お答えできません。

(10) 試験中にトイレへ行きたくなった場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。

(11) 試験終了時刻前に解答が済み、退出する場合は、黙って手を挙げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始後30分間及び終了前10分間は、退出できません。なお、退出する場合は、周りの受験者に配慮して、静かに退出してください。

(12) 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

(13) 試験終了後、マークシートを必ず提出してください。ただし、試験問題は、持ち帰ることができます。なお、マークシートが提出されていない場合は、失格となります。

(14) カンニング行為（他の受験者の答案等を見ること・他の受験者に答えを教えること・他者から答えを教わること・指定されたもの以外のものを机上に置くこと等）、替え玉受験、不正行為と疑われるような紛らわしい態度をとる行為、他の受験者の迷惑となる行為、係員の指示に従わない場合などは、不正行為とみなされます。不正行為とみなされた場合は、直ちに退場となり、当該期に受験する試験区分のすべてが失格となります。

(15) 試験問題の転載、複製などを固く禁じます。

３．その他

この試験については、電子式卓上計算機（電池式又はソーラー式で、四則計算、√、%、メモリ（MR、M±）等の標準的な機能を有するもの）を使用することができます。ただし、関数電卓、文字の記憶機能を有する機種は使用できませんので注意してください。

禁転載複製

問題１　生産システムに関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．生産技術の活動では、新製品のコンセプトをまとめ、品質目標、性能目標、原価目標を設定する。
イ．製品を市場へ提供することを、マテリアルハンドリングという場合がある。
ウ．製品企画の段階では、製品の構成を部品構成表を用いて定義する場合がある。
エ．調達物流は、サプライヤーの原材料や部品をバイヤー側の工場に運ぶことである。

問題２　生産管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．工程管理は、生産計画と生産統制から構成される。
イ．ＰＤＣＡは、計画―実施―評価―対策のサイクルをいう。
ウ．生産管理の第一管理と呼ばれるものに、品質管理、原価管理、資材管理がある。
エ．標準時間は、平均的な習熟度をもつ作業者が、標準作業を行うときの作業時間である。

問題３　多種少量生産と少種多量生産との比較に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．多種少量生産は、機種切り替えが比較的多くなる傾向がある。
イ．多種少量生産は、ライン生産に適しており、高い生産性の生産を目指している。
ウ．多種少量生産は、見込生産による計画的生産により、高い操業性を維持することが前提となる。
エ．少種多量生産は、資材管理面において棚卸資産の負担額が増える傾向にある。

問題４　製品の流し方に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．個別生産では、製品の流し方の観点から見ると、一般にフローショップ型になる。
イ．ロット生産は、個別生産に比べ、作業能率が向上し、作業の熟練も早くなる。
ウ．多品種ラインには、ライン切替方式や混合品種ラインが含まれる。
エ．セル生産方式には、１人方式、分割方式、巡回方式が含まれる。

問題５　製品企画に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．市場に競合する製品がある場合は、原価に利益を加えて売価を設定するのが一般的である。
イ．製品の販売を通じて利益を確保することは、製品企画の目的に含まれる。
ウ．顧客満足度を確保する製品の機能・品質・価格を決定することは、製品企画の目的に含まれる。
エ．製品の機能・品質・価格は、互いにトレードオフの関係にある。

禁転載複製

問題６　マーケティング活動に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．消費財におけるマーケティング活動は、損益分岐点の把握 → 市場性の検討 → 販売チャネルの確立 → プロモーションの検討という流れで行うことが一般的である。
イ．新技術を取り入れた製品では、開発部門・製造部門・販売部門が連携して、マーケティングを検討・推進する必要がある。
ウ．損益分岐点に達するまでの販売量が見込めなければ、製造原価や販売経費の削減、売価の引き上げといった検討が必要になる。
エ．大量販売は望めないものの、高機能・高品質製品を高価格で販売できる市場では、マーケットイン型の価格設定が、利益確保のために有利となる。

問題７　原価企画に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．原価企画は、企業の短期の事業計画に基づいて行う活動である。
イ．原価企画は、製品企画段階から、当該製品の企画・開発・製造・販売などの多部門にわたる専門メンバーが集まり行われる活動である。
ウ．製造工程への自動機器、省力機器の導入により、設計段階において、原価を低減できる余地は少なくなっている。
エ．設計段階における原価低減活動として、ジャストインタイム生産や作業改善活動がある。

問題８　ＤＲを実施することで得られる効果として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．プロジェクトの進捗状況確認
イ．情報の共有化
ウ．販売チャネルの構築
エ．上流工程での品質確保

問題９　設計工程の日程管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．技術的要因による日程遅れが後工程に影響しないようにするためには、技術的リスクに対する余裕を日程に織り込む必要がある。
イ．設計工程の進捗状況を把握するためには、設計の成果物である各種ドキュメントの完成状況を管理する必要がある。
ウ．ある一定期間において、設計の負荷工数が保有工数を大きく下回る場合には、前後期間からの負荷の平準化や、外注設計への依頼の中止などを検討する必要がある。
エ．設計の基準日程は、案件ごとに熟練設計者がこれまでの経験に基づいて設定するのが合理的である。

禁転載複製

問題10　工程管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．受注から納期までの期間が生産期間より短い場合、納期遵守のためには、見込調達や見込生産が必要となる。
イ．生産品種により負荷工数が異なる多種少量生産では、工程間、工程内の仕掛品を全てなくすことにより、手待ちは減少し、作業者や設備の稼働率が向上できる。
ウ．生産期間の短縮により、納期確保の容易化、在庫の回転率の向上、製造原価の引き下げなどの効果が期待できる。
エ．納期を遵守するためには、基準日程を決めて、顧客にそれに基づいた適切な納期を提示することが重要である。

問題11　生産計画に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．中日程計画の目的のひとつには、各品種の生産完了日に合わせて、購買・外注部品の調達手配を行うことが挙げられる。
イ．工数計画では、基準日程をもとに各工程での作業の着手日と完了日の予定を決める。
ウ．小日程計画における計画の対象は、工場内の製造部門別、工程別が中心である。
エ．日程計画では、各工程の負荷と能力の調整に重点を置き、両者の差が最小となるようにする。

問題12　工程管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．生産統制は、製作手配、差立、作業統制、事後処理の４段階に分けられる。
イ．中日程計画のアウトプット情報には、生産指示と受注指示の２つの種類がある。
ウ．余力管理の活動には、工数計画に対する修正があり、現在の仕事量を把握して、人や機械の能力と負荷を均衡させることをねらいとする。
エ．工程管理で用いる時間には、一般的に日程と工数の２つの表現方法がある。

問題13　生産活動における緩衝に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．モノによる緩衝には、原材料・部品在庫・仕掛品在庫、製品在庫などがある。
イ．緩衝規模が大きくなれば、それを維持するコストは小さくなる。
ウ．計画に緩衝を組み込むことで、生産計画に対する実績の差異を吸収し変動を減少させることができる。
エ．能力による緩衝には、予備人員・機械、残業、外注などがある。

禁転載複製

問題14　生産計画に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

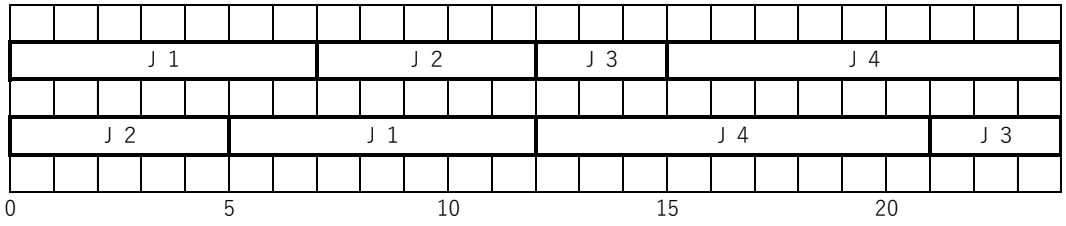
ア．ローリング計画は、計画の時点を移行しながら、先を見て、計画を順次立案する方式である。
イ．生産計画は、一般的には基本計画、総合生産計画、詳細生産計画の３つのレベルから捉えることがある。
ウ．工数計画では、手順計画や日程計画との調整を行いながら、負荷工数と生産能力工数の過不足への対策を講じる。
エ．中日程計画以降に立案されるものとしては、材料計画、手順計画、そして小日程計画がある。

問題15　下表に示すジョブに対して、下図は先着ジョブ優先規則（ＦＣＦＳ）を用いた作業計画図を示している。これに対し納期の切迫したジョブ優先規則（D.Date）のディスパッチングルールにより作業計画を作成した場合、この２つのスケジュールに関する記述とし最も不適切なものは、次のうちどれか。ただし、ジョブは全て到着しており、ジョブ番号は到着順であり、できる限り早く処理を行うものとする。

ジョブの内容

ジョブ番号	加工（単位：日）	納期（単位:日）
Ｊ１	7	17
Ｊ２	5	11
Ｊ３	3	24
Ｊ４	9	20

図　作業計画図（行間は各ジョブの納期）（単位：日）



ア．ＦＣＦＳルール及びD.Dateルールにおいて、Ｊ４ジョブはいずれも納期遅れが発生する。
イ．ＦＣＦＳルールによるスケジュールに比べて、D.Dateルールによるスケジュールで加工完了日が遅くなるジョブは２つである。
ウ．D.Dateルールによるスケジュールに比べて、ＦＣＦＳルールによるスケジュールにおけるＪ１ジョブの加工完了日は５日早くなる。
エ．ＦＣＦＳルール及びD.Dateルールにおいて、納期を遵守できないジョブの数はいずれも等しい。

禁転載複製

問題16　部品展開と部品所要量計算に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．ストラクチャー型の部品構成表は、製品を構成する部品の親子関係を表すとともに、各段階における部品の所要量を表している。
イ．サマリー型の部品構成表は、部品の加工方法や製品の組立順序とは無関係に、製品１単位を製造するために必要な部品や材料と、その所要量をまとめたものである。
ウ．サマリー型の部品構成表は、ストラクチャー型に比べて構造が複雑なため、データの登録や維持・管理に手間がかかる。
エ．部品所要量計算には、生産計画情報、部品構成表情報及び有効在庫量情報が必要である。

問題17　常備品として最も不適切な資材は、次のうちどれか。

ア．継続して使用され、品質劣化の心配がない資材
イ．共通性が高く、一定量の消費がある標準的な資材
ウ．単価が高い資材
エ．使用頻度の多い資材

問題18　ダブルビン法による在庫管理の導入・運用方法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．現在在庫している部品のＡＢＣ分析を行い、累積部品点数比率と累積金額比率の関係をグラフに表す。
イ．ＡＢＣ分析の結果に基づき、Ｃ区分に属する部品の中からダブルビン法に適した部品を選ぶ。
ウ．１つの容器に入れる数量を、例えば直近１週間の使用実績といったように、一定期間の使用実績数をもとに設定する。
エ．保管棚に部品の入った２つの容器を置き、それぞれに部品名・発注量などを書いたカードを付ける。片方が空になったら、そのカードを部品の発注担当者へ渡し補充発注を行う。

問題19　ＩＥの手法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．職場の自主的な改善活動の中での手段としてＩＥの手法が用いられる。
イ．仕事のシステムを開発するとき、ムダのない合理的なシステムを追求するためにＩＥの手法が用いられる。
ウ．仕事を機械化したり、情報システムを設計するとき基礎的な情報を得るためにＩＥの手法が用いられる。
エ．新製品開発の研究テーマ設定における設備能力を分析するための手段として、ＩＥの手法が用いられる。

禁転載複製

問題20　稼働分析に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．作業者を分析対象とした連続観測法は、繰り返しのある定型的な作業を対象に、詳細に分析する手法である。
イ．連続観測法は、基本的に１つの観測対象に対して、１人の観測者が必要となるため、観測効率が悪い。
ウ．瞬間観測法は、観測が連続的に行われていないため、連続観測法に比べて精度が落ちる。
エ．瞬間観測法における代表的な手法であるワークサンプリングでは、決められた手順に従って観測を行うことで、理論的な裏付けに基づいて、測定精度を設定できる。

問題21　時間研究に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．測定できなかった時刻は、その項目の測定値から類推して補充する。
イ．偶発的に起きた作業は、直前に発生した繰り返し定常的に行う作業に組み入れて測定値とする。
ウ．作業の標準時間は、最も早い作業者と最も遅い作業者の作業時間の平均値により求める。
エ．作業者が複数の自動機の始動操作を行い、自動加工を行う場合には、作業者と機械を分けて所要時間の分析を行う。

問題22　工程編成で用いられる固定式編成に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．固定式編成は、製品本体を移動させるコストが高い場合に採用される。
イ．固定式編成は、部門や工程の関係を体系的に考慮した組織的なレイアウト技術を必ずしも必要としない。
ウ．固定式編成は、固定された複数の大型工作機械を使う場合に適している。
エ．固定式編成は、設計変更があっても、対応が比較的容易である。

問題23　工程編成と生産形態に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．工程編成のタイプを決める際、受注形態、生産ロットサイズ、加工・組立生産又はプロセス生産などを考慮する必要がある。
イ．工程編成では、工程設計、作業設計、工程間の物流設計及びレイアウト設計をする活動が中心となる。
ウ．ロット生産は、熟練した多能工が１人で多くの工程の作業を担当する生産形態である。
エ．生産の形態の１つには、部品又は中間製品をある段階まで見込生産しておき、受注確定に対応して最終製品を短い期間で生産する方式がある。

禁転載複製

問題24　ラインバランシングに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．作業時間がサイクルタイムを超える作業ステーションには、直後の仕掛品を減らして、作業の遅れが後作業ステーションに影響しないようにすることが有効である。
イ．生産ラインの設計を開始する前に、方法改善により、要素作業時間の低減と作業の安定化を図ることが重要である。
ウ．作業の機械化、治工具の活用により、要素作業時間の短縮や安定化を図ることが重要である。
エ．流れ生産では、製品間隔の拡大又は短縮を図り、作業ステーションの変動を吸収することができる。

問題25　Ｂ社では、製品Ａを１日当たり900個生産する計画である。１日の拘束時間を９時間、午前と午後に10分ずつの休憩、昼休みを60分、手直しのきかない不適合品の発生が2.5％と推定された場合、製品Ａのサイクルタイム（ピッチタイム）として最も近い値は、次のうちどれか。

ア．0.43分／個
イ．0.50分／個
ウ．0.58分／個
エ．0.65分／個

問題26　品質管理活動に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．品質管理の目的は、買い手の要求に合った品質を設計し、その品質の品物、サービスを経済的に作り出すことにある。
イ．統計的品質管理は、データなどの客観的事実に基づいた管理を実施するために、統計的手法を品質に適用する管理活動である。
ウ．企業の社会的責任は、企業が企業倫理や社会規範に沿って、公正・公平に業務を行うという考えのもとに成立した概念である。
エ．製品やサービスの品質において、社会的責任の重要性は高まってきており、製品のライフタイム全体を通して品質を保証する必要がある。

問題27　品質と品質特性に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．保証品質は、製造工程が管理された状態において達成すべき品質の水準である。
イ．製造品質は、顧客が要求する品質で、市場品質とも呼ばれる。
ウ．品質特性は、要求事項に関連する、対象に本来備わっている特性である。
エ．代用特性は、人間の感性に依存する真の特性である。

禁転載複製

問題28　全数検査と抜取検査に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．全数検査は、全ての製品をチェックし、必ず全製品が適合品であることを保証する。
イ．全数検査が適用されるケースとしては、ロットの大きさが大きい場合が挙げられる。
ウ．抜取検査では、ロットから抜き取ったサンプル中の不適合品の個数により、ロットの合否を判定する。
エ．抜取検査において、合格すべきロットを不合格にする誤りは、消費者危険と呼ばれる。

問題29　品質保証活動とクレームに関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．品質保証活動を行うためには、各部門が経営者の品質方針に従って、活動を展開していく必要がある。
イ．アフターサービスは、品質保証活動の対象に含まれない。
ウ．クレームは、製品の欠陥だけではなく、顧客ニーズと製品との不適合がある場合にも発生する。
エ．類似クレームの発生を防止し、原因を把握するためには、クレーム品の製造履歴を追跡できるトレーサビリティの仕組みが重要となる。

問題30　製造段階の原価改善活動として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．作業や原材料のムダを排除する。
イ．製品の目標原価を設定する。
ウ．生産設備の不稼働時間を少なくする。
エ．製造中の不適合品の発生を抑制する。

問題31　原価の構造に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．原価の３要素である材料費、労務費、経費を合計した金額は、製造直接費と製造間接費を合計した金額とは異なる。
イ．総原価は、製造原価に販売費及び一般管理費を加えた値である。
ウ．利益は、販売価格から総原価を差し引いた値である。
エ．製造原価は、製造直接費と製造間接費を合計した値である。

禁転載複製

問題32　直接労務費の差異分析に関し、賃率差異が100,000円の不利差異であった。また、作業時間差異50,000円の有利差異であった。このときの直接労務費差異として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．50,000円（不利差異）
イ．150,000円（不利差異）
ウ．50,000円（有利差異）
エ．150,000円（有利差異）

問題33　生産実施段階の原価低減の方法に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．直接材料費の原価低減のために、品質管理を行って不適合品の発生を抑える。
イ．直接労務費の原価低減のために、付加価値を生まない時間の徹底的な短縮ないし排除を行う。
ウ．直接材料費の原価低減のために、設計段階においてＶＥなどの管理技術を用いて材料のムダを低減する設計を行う。
エ．直接経費の原価低減のために、間接部門の業務の見直しと改善を行う。

問題34　納期管理に関する記述として不適切なものは、次のうちどれか。

ア．納期を守ることは、顧客又は後工程から信頼を得ることに繋がる。
イ．納期遅延を避けるためには、納期より早めに納入することを心掛ける。
ウ．個別受注生産の場合は、適切な生産スケジュールをたて、スケジュール通りに生産を進めることが重要である。
エ．早期納入された原材料は、使用するまで追加の置き場所を確保する必要がある。

問題35　生産形態と納期管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．見込生産での納期管理では、準備段階における計画業務を中心として、計画的に生産できる体制を整備するのが基本となる。
イ．見込生産品については、顧客と約束する納期は原則として設定されないので、工場の生産能力が常に最大になるように生産を行えばよい。
ウ．受注生産において、非繰り返し型の製品の納期決定は、製造工程を分解して、工程ごとに必要となる作業日程の見積りを行うとよい。
エ．受注生産において、生産計画を立案する場合には、飛び込み注文が入ることを考慮して、余裕を持ったスケジュールを立てるとよい。

禁転載複製

問題36　納期遅延対策に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．不適合品の発生は、工程検査で発見するのが最も重要である。
イ．納期遅延対策は、緊急に行うものと、再発防止のために行う根本的なものに分けて実施すべきである。
ウ．納期遅延防止のためには、上流工程よりも下流工程の進捗管理を重点的に行うべきである。
エ．納期遅れの有無についての確認は、毎日のようにできるだけ頻繁に行うようにする。

問題37　労働安全衛生管理に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．強度率は、1,000延べ実労働時間当たりの労働日数で表す。
イ．度数率は、災害統計で100万延べ実労働時間当たりに発生する労働災害による死傷者数で表す。
ウ．衛生管理者の選任を要する事業場は、常時使用する労働者が50人以上の全業種の事業場である。
エ．産業医は、全業種で10人以上の労働者を使用する事業場に１名選任しなければならない。

問題38　５Ｓ活動の推進に関する記述として最も適切なものは、次のうちどれか。

ア．５Ｓ活動は、整理・整頓・清掃・清浄・躾のローマ字表示の頭文字で５つの総称を表している。
イ．活動の進め方としては、まず整理に着手し、次に整頓を行うという流れが一般的であり、効果的である。
ウ．整頓とは、必要なものと不必要なものを区分し、不必要なものを処分することである。
エ．５Ｓ活動は、作業者による自発的な活動である。

問題39　環境基本法における３つの基本理念に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．環境の恵沢の享受と継承
イ．環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築
ウ．自然環境保全地域の保護の推進
エ．国際的協調による地球環境保全の積極的推進

禁転載複製

問題40　大気汚染の防止技術・対策に関する記述として最も不適切なものは、次のうちどれか。

ア．揮発性有機化合物については、塗装を行う工場や工事現場など、揮発性有機化合物の排出量の多い施設が規制対象となっている。
イ．硫黄酸化物については、工場のボイラーなどの固定発生源に対して、重油の低硫黄化や排煙脱硝装置の設置などの対策が採られている。
ウ．大都市地域の大気汚染改善のため、「自動車ＮＯｘ・ＰＭ法」により所有・使用できる自動車を制限している。
エ．ばいじん対策として、ボイラーなどの燃焼装置では電気集じん装置や、ろ過集じん装置が採用されている。